

●掲載データ一覧

環境関連データ	図表1 国内企業活動におけるエネルギー使用量および売上高原単位の推移
	図表2 国内企業活動におけるCO ₂ 排出量の推移
	図表3 2023年度「環境取り組みの数値目標」と活動実績、および2024年度「環境取り組みの数値目標」
	図表4 日本国内全体の環境負荷(2023年度)
	図表5 日本国内の環境負荷 事業工程別(2023年度)
	図表6 海外製造子会社の環境負荷(2023年度)
	図表7 海外販売子会社の環境負荷(2023年度)
	図表8 使用済み製品と消耗品の回収量
	図表9 使用済み製品の再資源化率
	図表10 産業廃棄物および一般廃棄物の特殊最終処分率の推移
	図表11 水の使用量の推移
	図表12 PRTR指定化学物質の排出量および移動量の内訳
	図表13 PRTR指定化学物質総使用量と排出量および移動量の合計の推移
	図表14 PRTR指定化学物質排出量および移動量
	図表15 国内全体の委託貨物輸送量内訳とモーダルシフト率の推移
	図表16 委託貨物輸送によるCO ₂ 排出量の内訳
	図表17 リターナブルラック使用率と使い捨て梱包材削減量の推移
	図表18 環境教育実施内容と参加人数(2023年度)
環境会計	図表19 2023年度の集計結果
	図表20 コスト(投資額+費用額)の推移
	図表21 経済効果(収益+費用節減)の推移
	図表22 環境会計の推移(製品の環境配慮設計などの開発費用を除いた比較)
主要事業所の環境データ (サイトデータ)	図表23 サイトデータ(筑波事業所)
	図表24 サイトデータ(霞ヶ浦事業所)
	図表25 サイトデータ(宇部事業所)
	図表26 サイトデータ(理想開発センター)
社会関連データ	図表27 採用実績(国内)(新卒/中途)
	図表28 採用実績(国内)(男性/女性)
	図表29 労働災害発生件数および度数率・強度率
	図表30 延実労働時間と労働損失日数

凡例について:

注…個別箇所の増減を説明

※…図表全体に関わる注記

*…言葉の定義

環境関連データ

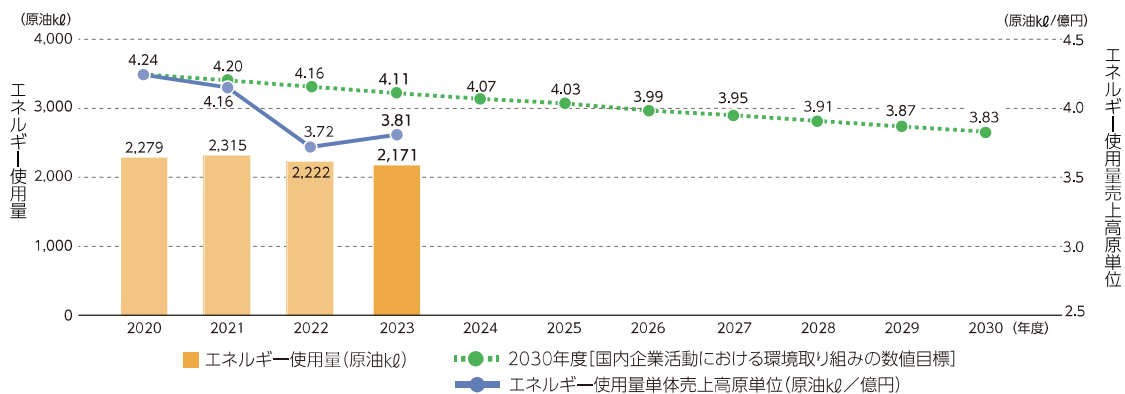
2030 年度 環境取り組みの数値目標の進捗

企業の成長と温暖化対策の両立をめざす産業界を挙げての取り組みである「電機・電子業界 カーボンニュートラル行動計画」を踏まえ、2030 年度「環境取り組みの数値目標」の達成に向けて単年度ごとに数値目標を設定し、環境負荷低減活動の進捗を管理しています。

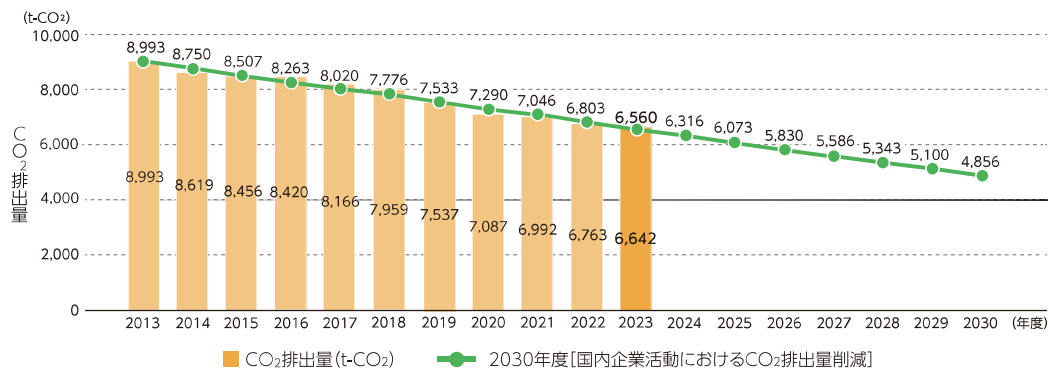
国内企業活動における「省エネ推進」

国内全体で 2020 年度を基準として、2030 年度に 9.56%改善する。
 (2030 年度においてエネルギー使用量単体売上高原単位を 3.83 原油kℓ／億円以下にする。)
 エネルギー原単位改善率を年平均 1 %改善する。

図表 1 国内企業活動におけるエネルギー使用量および売上高原単位の推移

国内企業活動における「CO₂ 排出量削減への挑戦」(チャレンジ目標)

国内全体で 1) 国内事業所のエネルギー起源 CO₂ 排出量の削減
 2) 2013 年度基準で、46% 程度の削減に挑戦する

図表 2 国内企業活動における CO₂ 排出量の推移

環境関連データ

図表3 2023年度「環境取り組みの数値目標」と活動実績、および2024年度「環境取り組みの数値目標」

カテゴリー	CO ₂ 排出量の削減		
	適用範囲	国内全体と海外製造子会社	国内全体 国内生産事業所合計
2023年度「環境取り組みの数値目標」		7,558t-CO ₂ 以下にする。	6,632t-CO ₂ 以下にする。 2,551t-CO ₂ 以下にする。
2023年度活動実績		7,580t-CO ₂	6,642t-CO ₂ 注1 2,491t-CO ₂
評価		△	△ ○
2024年度「環境取り組みの数値目標」		7,594t-CO ₂ 以下にする。	6,645t-CO ₂ 以下にする。 2,531t-CO ₂ 以下にする。

評価の凡例:○ 達成 △未達成だが前年より改善 ×未達成

注1 図表4の2023年度CO₂排出量(7,083t-CO₂/年)と差異があるのは、図表4の委託貨物輸送の集計範囲には、物流部所管以外の委託貨物輸送が含まれているからです。

POINT

2023年度も継続して省エネ効果の高い照明や空調への入れ替えなどを行いました。CO₂排出量削減に大きく寄与する設備投資はありませんでした。2022年度と比較してCO₂排出量の増加は、ありませんでした。再生可能エネルギーの導入等、従来手法とは異なるCO₂排出量削減を検討しています。

図表4 日本国内全体の環境負荷(2023年度)

INPUT					OUTPUT			
		2022年度	2023年度	前年度比		2022年度	2023年度	前年度比
日本国内の事業活動全体におけるエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量、資源投入量、廃棄物排出量などを表します。								
エネルギーの使用量	GJ/年	120,962 注1	118,728	98	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	7,217 注1	7,083
電力	MWh	7,849 注1	7,659	98	電力	t-CO ₂ /年	4,356 注1	4,251
A重油	kℓ	34	30	89	A重油	t-CO ₂ /年	92	82
LPG	t	104	98	94	LPG	t-CO ₂ /年	313	295
灯油	kℓ	0	0	—	灯油	t-CO ₂ /年	0	0
都市ガス	千m ³	50	55	110	都市ガス	t-CO ₂ /年	111	123
ガソリン	kℓ	398	407	102	ガソリン	t-CO ₂ /年	940	959
軽油	kℓ	1	0	43	軽油	t-CO ₂ /年	2	1
委託貨物輸送量*6	万t・km	750	686	91	委託貨物輸送量*6	t-CO ₂ /年	1,402	1,374
水の使用量	m ³	24,046	23,224	97	排水量	m ³	21,901	21,462
製品の部品・材料	t	4,895	4,238	87	蒸気放散・散水その他	m ³	0	0
使用済み製品回収量	t	2,062	2,009	97	製品*5	t	7,140	6,096
					使用済み製品・廃棄物処理量*1	t	2,842	2,720
					再生投入量*7	t	239	213
					再資源化量*2	t	2,578	2,456
					その他*3	t	4	10
					埋立最終処分量*4	t	21	40

集計範囲：P.4 図表5「日本国内の環境負荷 事業工程別(2023年度)」のINPUT/OUTPUTを集計しています。

集計対象：日本国内 本社・営業、開発・設計、生産でのエネルギー使用量とそれに伴うCO₂排出量、水使用量と排水量、廃棄物排出量。生産での物質投入量、日本国内の物流・輸送、社有車の運行による燃料使用量、委託貨物輸送量(物流部所管以外の委託貨物輸送量も含む)とそれに伴うCO₂排出量。回収・リユース・リサイクルでの使用済み製品回収量と廃棄物排出量。

注1 2022年度の数値に誤りがあったため、訂正しました。

注2 設備の除却を行ったためです。

- *1 廃棄物排出量…当社では、有価物や再資源化されるもの、リユースされるものを含めて工程から不要物として排出されるものを全てを廃棄物としています。
- *2 再資源化量…再資源化された量および熟を得る利用(サーマルリサイクル)量で有価物を含めた合計量。工程に再投入される量は除く。
- *3 廃棄物排出量内訳のその他…再資源化処理や焼却処分でのガスとしての放出量など。
- *4 埋立最終処分量…埋立処分される量。再資源化処理などの中間処理で発生する残渣、焼却灰で埋立処理される量を含む。
- *5 製品…高速カラープリンター「オルフィス」、デジタル印刷機「リソグラフ」およびそれらのインク、マスターのサプライ品。
- *6 委託貨物輸送量…輸送業者に委託する製商品、部品・パーツの配送・調達、使用済み製品の回収、廃棄物の搬送などの輸送量。
- *7 再生投入量…再資源化処理されたもののうち原材料として工程に再投入される量。

●CO₂排出量の算定について

電力：日本国内については通年にならって0.555kg-CO₂/kWh、海外については国ごとにIEAの統計データの換算値を適用。
A重油：2.71kg-CO₂/ℓ、LPG：3.00kg-CO₂/kg、ガソリン：2.32kg-CO₂/ℓ 委託貨物輸送量：省エネ法の算定基準による。

環境関連データ

図表5 日本国内の環境負荷 事業工程別(2023年度)

事業工程	INPUT				OUTPUT					
		2022年度	2023年度	前年度比		2022年度	2023年度	前年度比		
本社・営業	本社・営業部門の事業所活動におけるエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	18,231	18,111	99	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	1,003	996	99
	昼間電力	MWh	1,615	1,572	97	昼間電力	t-CO ₂ /年	896	873	97
	LPG	t	3	5	159	LPG	t-CO ₂ /年	9	15	159
	灯油	kℓ	0	0	—	灯油	t-CO ₂ /年	0	0	—
	都市ガス	千m ³	44	49	111	都市ガス	t-CO ₂ /年	98	109	111
	水の使用量	m ³	3,260	2,662	82	排水量	m ³	3,260	2,662	82
					廃棄物排出量*1	t	9	8	91	
					再資源化量*2	t	9	8	91	
					その他*3	t	0	0	—	
				埋立最終処分量*4	t	0	0	137		
開発・設計	製品開発におけるエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	22,598注1	22,413	99	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	1,282注1	1,271	99
	昼間電力	MWh	1,610注1	1,618	100	昼間電力	t-CO ₂ /年	893注1	898	100
	夜間電力	MWh	676注1	646	96	夜間電力	t-CO ₂ /年	375注1	359	96
	LPG	t	0	0	—	LPG	t-CO ₂ /年	0	0	—
	都市ガス	千m ³	6	6	106	都市ガス	t-CO ₂ /年	13	14	106
	水の使用量	m ³	6,640	6,817	103	排水量	m ³	6,640	6,817	103
					廃棄物排出量*1	t	103	86	83	
					再資源化量*2	t	98	77	78	
					その他*3	t	3	8	—	
				埋立最終処分量*4	t	0.9	0.8	93		
生産	生産した主要製品*5への材料投入量とエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量、廃棄物排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	45,581	43,795	96	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	2,587	2,483	96
	昼間電力	MWh	3,583	3,475	97	昼間電力	t-CO ₂ /年	1,989	1,929	97
	夜間電力	MWh	365	348	95	夜間電力	t-CO ₂ /年	202	193	95
	A重油	kℓ	34	30	89	A重油	t-CO ₂ /年	92	82	89
	LPG	t	101	93	92	LPG	t-CO ₂ /年	304	280	92
	灯油	kℓ	0	0	—	灯油	t-CO ₂ /年	0	0	—
	水の使用量	m ³	14,146	13,745	97	排水量	m ³	12,001	11,983	100
	製品の部品・材料	t	4,895	4,238	87	蒸気放散・散水その他	m ³	0	0	—
	金属	t	790	758	96	製品*5	t	7,140	6,096	85
	プラスチック	t	849	731	86					
	ガラス	t	0	0	96					
	紙	t	1,440	1,174	82					
	その他	t	1,815	1,575	87					
	PRTR物質取扱量	t	1.9	2.3	121	PRTR物質の排出量・移動量合計	kg	56.2	277.0	493
					大気への排出量	kg	0	0	—	
					水域への排出量	kg	0	0	—	
					土壌への排出量	kg	0	0	—	
				廃棄物への移動量	kg	56.2	277.0	493		
				廃棄物排出量*1	t	668	617	92		
				再資源化量*2	t	666	594	89		
				その他*3	t	1	3	278		
				埋立最終処分量*4	t	2	21	1,171注2		
販売・物流・輸送	お客様への販売活動や保守サービス活動など社有車の燃料使用量とCO ₂ 排出量、製品の配送、使用済み製品の回収運搬など委託貨物輸送に関わるエネルギー使用量とCO ₂ 排出量を算出しています。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	34,552	34,408	100	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	2,344	2,333	100
	ガソリン	kℓ	398	407	102	ガソリン	t-CO ₂ /年	940	959	102
	軽油	kℓ	1	0	43	軽油	t-CO ₂ /年	2	1	43
	委託貨物輸送量*6 万t・km		750	686	91	委託貨物輸送量*6	t-CO ₂ /年	1,402	1,374	98
回収・リユース・リサイクル	使用済みとなった製品の回収量およびリユース、リサイクル量を表します。 回収した製品の有効利用を進めていますが、再資源化できない部品などの一部埋立処分も行っています。									
	使用済み製品回収量	t	2,062注1	2,009	97	使用済み製品処理量	t	2,062	2,009	97
	デジタル印刷機等	t	1,827注1	1,781	97	再生投入量*7	t	239	213	89
	インクボトル	t	208	200	96	再資源化量*2	t	1,805	1,778	99
	インクカートリッジ	t	27	28	104	その他*3	t	0	0	—
					埋立最終処分量*4	t	18	18	98	

*1 廃棄物排出量…当社では、有価物や再資源化されるもの、リユースされるものを含めて工程から不要物として排出されるものを全てを廃棄物としています。

*2 再資源化量…再資源化された量および熱を得る利用(サーマルリサイクル)量で有価物を含めた合計量。工程に再投入される量は除く。

*3 廃棄物排出量内訳のその他…再資源化処理や焼却処分でのガスとしての放出量など。

*4 埋立最終処分量…埋立処分される量。再資源化処理などの中間処理で発生する残渣、焼却灰で埋立処理される量を含む。

*5 製品…高速カラープリンター「オルフィス」、デジタル印刷機「リノグラフ」およびそれらのインク、マスターのサプライ品。

*6 委託貨物輸送量…輸送業者に委託する製商品、部品・パーツの配送・調達、使用済み製品の回収、廃棄物の搬送などの輸送量。

*7 再生投入量…再資源化処理されたもののうち原材料として工程に再投入される量。

^{注1} 2022年度の数値に誤りがあったため、訂正しました。

^{注2} 設備の除却を行ったためです。

環境関連データ

図表6 海外製造子会社の環境負荷(2023年度)

対象	INPUT				OUTPUT					
		2022年度	2023年度	前年度比		2022年度	2023年度	前年度比		
海外製造子会社 【集計範囲】 理想科学グループの海外全生産拠点:理想(中国)科学工業有限公司珠海工場、理想工業(香港)有限公司、理想工業(深セン)有限公司、理想(上海)印刷機材有限公司、RISO INDUSTRY(THAILAND) CO.,LTD.	海外製造子会社での材料投入量とエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量、廃棄物排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	13,334	13,533	101	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	940	939	100
	電力	MWh	1,248	1,275	102	電力	t-CO ₂ /年	881	885	100
	LPG	t	3	3	102	LPG	t-CO ₂ /年	9	9	102
	ガソリン	kℓ	16	14	86	ガソリン	t-CO ₂ /年	38	33	89
	軽油	kℓ	5	5	93	軽油	t-CO ₂ /年	13	12	93
	水の使用量	m ³	13,265	15,024	113	排水量	m ³	9,968	11,368	114
	製品の部品・材料	t	3,430	2,995	87	蒸気放散・散水その他	m ³	2,690	3,028	113
	金属	t	1,849	1,550	84	製品*5	t	4,038	3,678	91
	プラスチック	t	503	446	89					
	ガラス	t	0	0	80					
	紙	t	442	412	93					
	その他	t	637	587	92					
						廃棄物排出量*1	t	192	175	91
						再生投入量*7	t	0	0	—
						再資源化量*2	t	163	149	91
						その他*3	t	11.5	10	87
						埋立最終処分量*4	t	17.5	16.3	93

図表7 海外販売子会社の環境負荷(2023年度)

対象	INPUT				OUTPUT					
		2022年度	2023年度	前年度比		2022年度	2023年度	前年度比		
海外販売子会社 全体 【集計範囲】 海外16子会社* および営業拠点*8	海外販売子会社の本社・営業拠点におけるエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量原単位	GJ/人*9	56.7	52.8	93	CO ₂ 排出量原単位	t-CO ₂ /人*9	3.68	3.43	93
	エネルギーの使用量	GJ/年	38,641	35,425	92	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	2,513	2,304	92
	電力	MWh	1,206	1,161	96	電力	t-CO ₂ /年	728	708	97
	天然ガス	m ³	8,733	11,771	135	天然ガス	t-CO ₂ /年	18	24	133
	ガソリン	kℓ	600	530	88	ガソリン	t-CO ₂ /年	1,392	1,229	88
	軽油	kℓ	145	133	92	軽油	t-CO ₂ /年	375	343	91
	水の使用量	m ³	513	731	142	排水量	m ³	513	731	142

*RISO, INC. RISO FRANCE S.A. RISO (Deutschland) GmbH RISO (U.K.) LTD. RISO IBERICA, S.A. RISOGRAF ITALIA S.R.L. RISO AFRICA (PTY) LTD. RISO KOREA LTD. RISO HONG KONG LTD. RISO (Thailand) CO., LTD. RISO INDIA PRIVATE LTD. 理想(中国)科学工業有限公司、RISO LATIN AMERICA, INC. RISO EURASIA LLC. RISO TURKEY BASKI COZUMLERI A.S. RISO (SG) PTE. LTD.

*1 廃棄物排出量…当社では、有価物や再資源化されるもの、リユースされるものを含めて工程から不要物として排出されるもの全てを廃棄物としています。

*2 再資源化量…再資源化された量および熱を得る利用(サマールリサイクル)量で有価物を含めた合計量。工程に再投入される量は除く。

*3 廃棄物排出量内訳のその他…再資源化処理や焼却処分でのガスとしての放出量など。

*4 埋立最終処分量…埋立処分される量。再資源化処理などの中間処理で発生する残渣、焼却灰で埋立処理される量を含む。

*5 製品…高速カラープリンター「オルフィス」、デジタル印刷機「リソグラフ」およびそれらのインク、マスターのサプライ品。

*6 委託貨物輸送量…輸送業者に委託する製商品、部品・パーツの配送・調達、使用済み製品の回収、廃棄物の搬送などの輸送量。

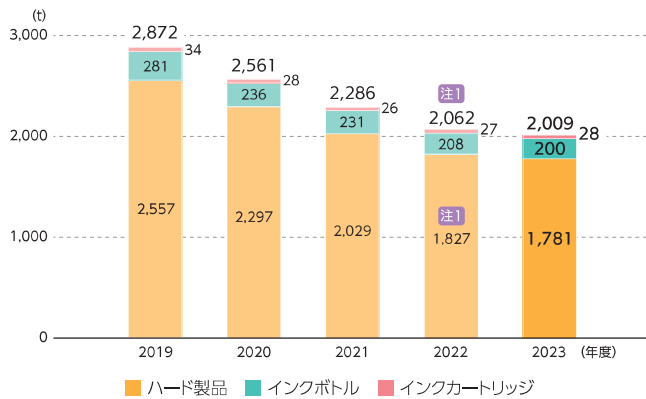
*7 再生投入量…再資源化処理されたもののうち原材料として工程に再投入される量です。

*8 海外販売子会社の環境負荷の把握は本社が主で支店等の営業拠点のデータ収集はまだ一部です。2023年度事業所・拠点在籍人員比からのデータ補正率は52.8%。

*9 海外販売子会社については、事業所の移動、人員の増減、調査の可否など変動が大きいいため、調査を実施した事業所に所属する従業員の総数を分母として原単位を求め、効率の推移を表しました。

環境関連データ

図表8 使用済み製品と消耗品の回収量

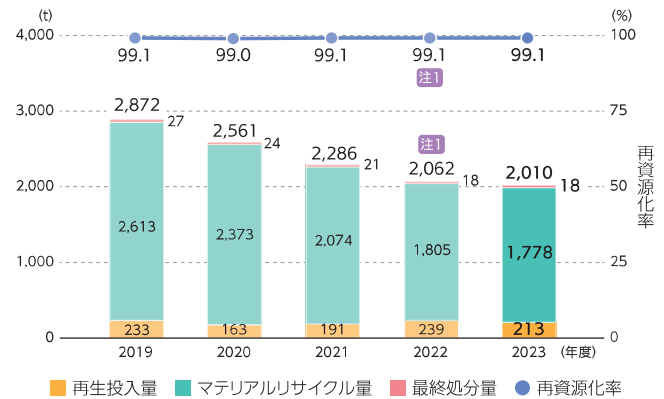


集計範囲: 日本国内の使用済み製品を対象に集計しています。ただし、デジタル印刷機のリースとしてのレンタル機の返却・回収を除いています。

POINT

当社は「使用済み製品は廃棄物ではなく、貴重な資源である」という考えのもと、使用済みハード製品・消耗品の回収・リサイクルを積極的に進めています。海外でも、現地の法律や社会的要請を踏まえ、使用済み製品の回収・再資源化を進めています。

図表9 使用済み製品の再資源化率

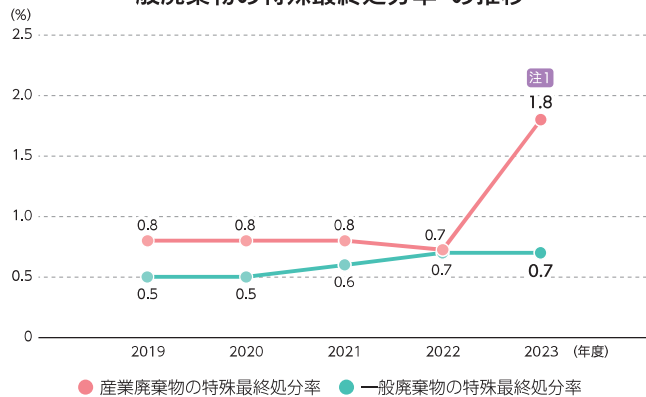


集計範囲: 日本国内の使用済み製品を対象に集計しています。ただし、デジタル印刷機のリースとしてのレンタル機の返却・回収を除いています。

POINT

使用済み製品をリサイクル製品として再生投入するとともに、リユースできない部品・パーツの再資源化を継続維持しています。

図表10 産業廃棄物および一般廃棄物の特殊最終処分率*の推移



集計範囲: 筑波、宇部、霞ヶ浦、開発本部の各事業所から排出される産業廃棄物量、一般廃棄物量（有価物、再資源化物としての排出量を含む）。国内全ての使用済み製品の回収量と再資源化量、ほかの処理内訳量（ただし、レンタル機の戻り・返品、手を加えないレンタル機の別の貸出先での再使用は除く）

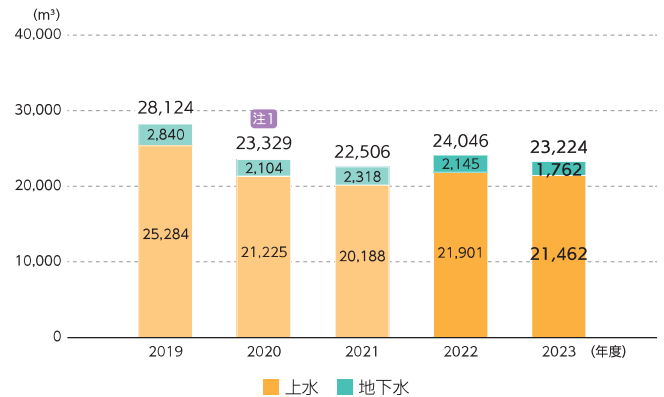
*特殊最終処分率…当社では、単純焼却量+再資源化処理で埋立処分される量（残渣・焼却灰）+直接埋立処分量を特殊最終処分量と定義し、特殊最終処分量の廃棄物排出量（有価物、再資源化物を含む）に占める割合（%）を特殊最終処分率としています。単純焼却については資源を有効に活用していないものと考え、投入量全てを埋立処分量とみなしています。

注1 設備の除却を行ったためです。

POINT

産業廃棄物および一般廃棄物の最終処分率が現在の水準を超えないように維持管理しています。

図表11 水の使用量の推移



集計範囲: 日本国内の水の使用量を対象に集計しています。

POINT

生産事業所で使用する水は、その約1割が原材料およびボイラー蒸気の原水で、残りの約9割が主にトイレや食堂などで使用する生活用水です。これらは、公共水域または下水へ排出しています。2023年度の使用量は前年度より約822m³（約3%）減少しました。

環境関連データ

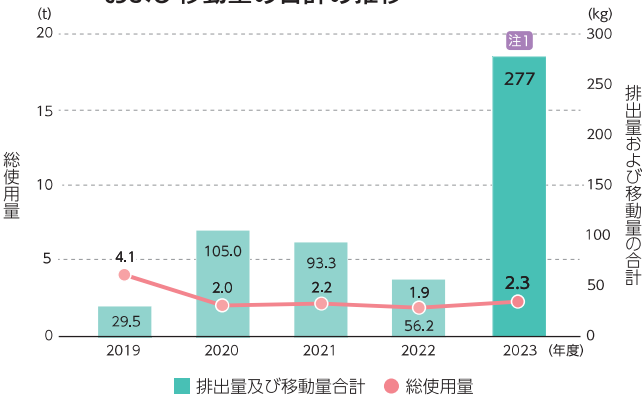
図表12 PRTR指定化学物質の排出量および移動量の内訳

(単位:kg)

	総使用量		排出・移動量小計		大気排出量		水域排出量		土壌排出量		廃棄物移動量	
	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度
ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル	114.7	61.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
BHT	10.0	290.0	7.0	254.0	—	—	—	—	—	—	7.0	254.0
モリブデン及びその化合物	107.9	102.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
メタクリル酸2,3-エポキシプロピル	1,610.9	1,584.3	19.6	—	—	—	—	—	—	—	19.6	—
2-エチルヘキサノ酸	3.0	29.7	0.2	—	—	—	—	—	—	—	0.2	—
メタクリル酸	4.4	0.8	4.4	1.0	—	—	—	—	—	—	4.4	1.0
メタクリル酸メチル	9.9	0.9	9.9	1.0	—	—	—	—	—	—	9.9	1.0
二アクリル酸ヘキサメチレン	1.0	—	1.0	—	—	—	—	—	—	—	1.0	—
有機スズ化合物	1.0	—	1.0	—	—	—	—	—	—	—	1.0	—
ノルマル-ヘキサン	12.1	—	12.1	—	—	—	—	—	—	—	12.1	—
アクリル酸2-ヒドロキシエチル	1.0	0.6	1.0	1.0	—	—	—	—	—	—	1.0	1.0
ジエチレングリコールモノブチルエーテル	—	10.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ジエタノールアミン	—	136.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
シクロヘキサン	—	30.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
グリホサートイソプロピルアミン塩	—	4.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アルキルフェノール	—	20.0	—	20.0	—	—	—	—	—	—	—	20.0
計	1,875.8	2,272.1	56.2	277.0	—	—	—	—	—	—	56.2	277.0

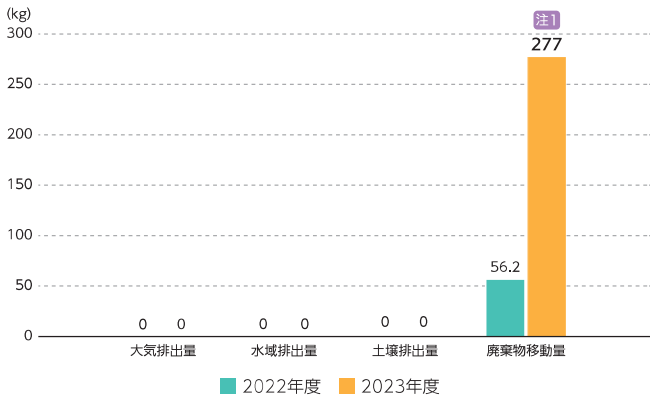
集計範囲:筑波事業所、宇部事業所、霞ヶ浦事業所、理想開発センター
※環境側面調査の結果から年間取扱量が1kg以上の物質について排出量・移動量を集計しています。

図表13 PRTR指定化学物質総使用量と排出量
および移動量の合計の推移



集計範囲:筑波事業所、宇部事業所、霞ヶ浦事業所、理想開発センター
※環境側面調査の結果から年間取扱量が1kg以上の物質について排出量・移動量を集計しています。

図表14 PRTR指定化学物質排出量および移動量



集計範囲:筑波事業所、宇部事業所、霞ヶ浦事業所、理想開発センター
※環境側面調査の結果から年間取扱量が1kg以上の物質について排出量・移動量を集計しています。

注1 取り扱いを廃止し廃棄したためです。

POINT

当社は、PRTR*指定化学物質の排出量・移動量を調査しています。調査結果をもとに、代替物質への転換や排出抑制策を検討し、生産過程における指定化学物質の排出量および移動量低減に結びつけています。

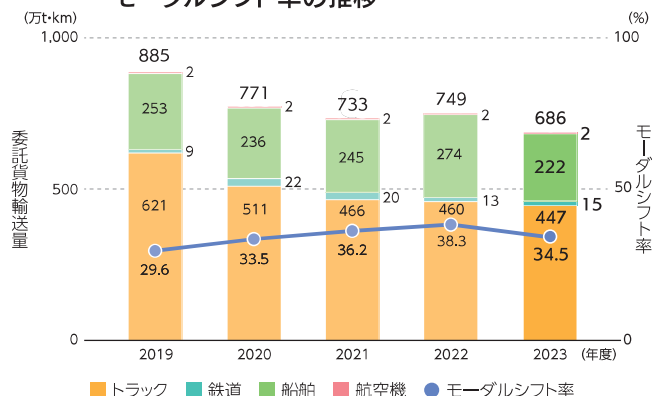
2023年度のPRTR指定化学物質の総使用量は2.3tと前年度より0.4t増加しました。排出量・移動量の合計については0.22t増加しました。

今後も代替物質への切り替えなど検討し、使用量の削減を図っていきます。

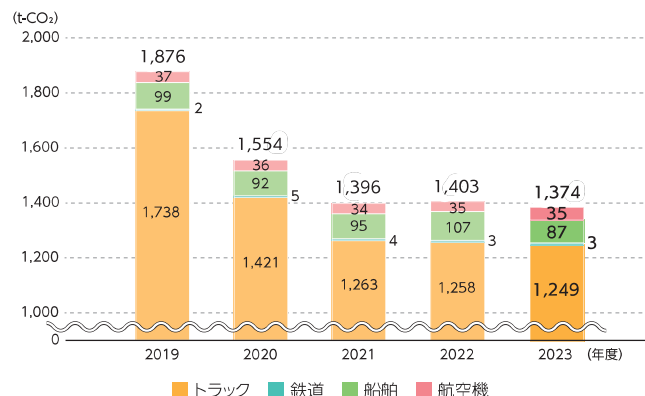
*PRTR(Pollutant Release and Transfer Register: 環境汚染物質排出・移動登録) … 環境汚染のおそれのある化学物質の環境(大気、水域、土壌)への排出量または廃棄物としての移動量を事業者自ら把握し、その結果を行政機関に報告・公表することにより、事業者の自主的な管理を促進し、環境保全上の支障を未然に防止することを目的とした仕組み。

環境関連データ

図表15 国内全体の委託貨物輸送量内訳とモーダルシフト率の推移



集計範囲:日本国内での物流部、営業本部、工場、リサイクルセンターの委託貨物輸送(製品、部品の配送、部材調達、廃棄物の排出、使用済み製品の回収)量

図表16 委託貨物輸送によるCO₂排出量の内訳

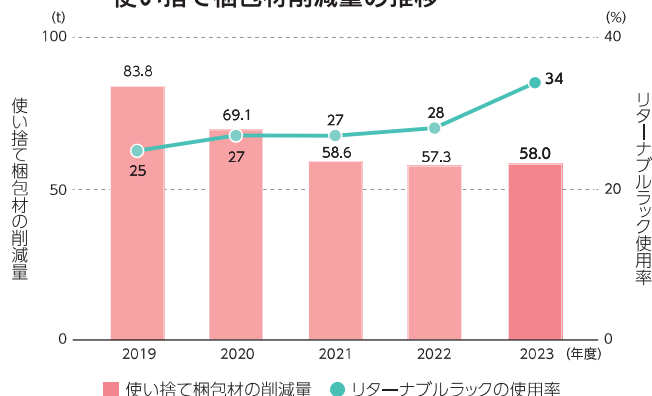
集計範囲:日本国内での物流部、営業本部、工場、リサイクルセンターの委託貨物輸送(商品、部品の配送、部材調達、廃棄物の排出、使用済み製品の回収)に伴うCO₂排出量

POINT

当社は、省エネ法による特定荷主に該当していませんが、製品輸送時の環境負荷を低減させるべく、委託輸送量の正確な把握とCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

2023年度も消耗品輸送についてトラックから船舶へのモーダルシフトに取り組みました。2022年度に比べモーダルシフト率が38.3%から34.5%、CO₂排出量は29t-CO₂の2.1%減少しました。

図表17 リターナブルラック使用率と使い捨て梱包材削減量の推移



集計範囲:筑波出荷センターから国内向け(営業拠点、販売店、お客様)に出荷するデジタル印刷機および高速カラープリンターを対象としています。

POINT

製品の出荷にリターナブルラックを使用することで、段ボールや発泡スチロールなどの使い捨て梱包材の使用量を削減しています。

2023年度は、リターナブルラックの使用率が34%で、梱包材を58.0t削減しました。

図表18 環境教育実施内容と参加人数(2023年度)

研修(教育)の種類	回数(回)	延べ人数(人)	延べ時間(人・時間)
一般環境教育(Web学習)	1	1,681	420
一般環境教育	12	127	81
環境方針・EMPの確認教育	1	301	151
内部監査員教育	8	53	412
特定環境教育	11	90	33
事故・緊急時訓練	8	149	110
防災訓練	3	514	498
EMSレベルアップ教育・研修	2	18	18
外部セミナー(法規制動向…等)受講	3	9	36
安全・衛生向上教育	1	53	53
総計	50	2,995	1,812

集計範囲:日本国内の事業所で実施する教育・研修

※研修・教育のうち、環境に関わるものを抽出し集計しています。

POINT

社員一人ひとりの環境意識の向上と環境保全活動の実践を目的とした一般向けから、内部品質環境監査員教育やEMS外部資格教育・研修などISO等の専門教育まで、幅広いプログラムを整備して環境教育・研修を行っています。

環境会計

- 集計の方法・考え方
 - ・環境保全コストや経済効果の把握の仕方は、環境省の「環境会計ガイドライン(2005年版)」を参考にしています。ただし、コスト分類については、当社独自の分類に合わせて変えています。また、環境保全コストの費用額に減価償却費は含めていません。効果については、実質的效果(確実な根拠に基づいて算定される)といわれる収益と費用節減を計上しています。実質的效果以外の推定的効果は計上していません。
 - ・環境配慮設計に関わる環境保全コストを表中に計上すべきですが、環境保全を目的とする部分と環境保全目的ではない部分を明確に区別できないため、研究開発費の総額として有価証券報告書に掲載しています。
- 対象期間: 2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)
- 集計範囲: 理想科学工業株式会社国内事業所(筑波事業所、霞ヶ浦事業所、宇部事業所、理想開発センター、本社部門および営業拠点)
なお、営業拠点については、「省資源・リサイクル」「EMS構築・運用管理」を集計対象としています。

図表19 2023年度の集計結果 (単位:千円)

活動の区分	分類	環境保全コスト			環境保全効果	
		環境保全活動	投資額	費用額	経済効果	内容
地球温暖化防止対策	・燃料消費削減 ・電力消費削減	・高効率パイラーへの更新、 モーターシフトの実施 ・省エネ機器の導入など	5,470	3,500	146	・製造、輸送時のCO ₂ 削減 ・電力使用量の削減
省資源・リサイクルの推進	・使用済み製品の有効活用 ・廃棄物の有効活用 ・廃棄物の処理	・使用済み製品の回収・ リサイクル ・廃棄物の分別、再資源化		267,548	369,445	・リユースによるコストダウン ・再資源化率向上
環境コミュニケーション	・製品の環境情報提供 ・環境への取り組みに関する 情報提供	・環境ラベルの取得 ・環境報告書の発行 ・展示会への出展		17,454		・エコマーク商品認定など ・環境報告書発行、WEB改訂など
緑地	・緑地の美化、維持	・緑地の美化、維持		3,520		・緑地の美化、維持
法規制遵守 (公害防止対策・環境汚染防止)	・遵法活動(水質、大気など) ・法規制の動向把握	・排水の管理 ・排ガスの管理 ・設備の点検、保守 ・法規制の監視		25,411		・環境保全活動 ・国内外法規制動向の調査・把握
グリーン調達	・原材料、部品の環境情報の 収集および登録	・REACH他環境情報システム の運用		6,667		・環境情報の更新、維持管理
EMS構築・運用管理活動	・ISO	・ISO14001認証取得、維持 管理		9,531		・ISO14001認証更新、 維持管理
総計			5,470	333,631	369,591	

図表20 コスト(投資額+費用額)の推移 (単位:千円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
地球温暖化防止対策	18,163	1,073	1,370	570	8,970
省資源・リサイクルの推進	383,016	333,979	291,048	260,595	267,548
環境コミュニケーション	15,153	8,749	11,971	14,139	17,454
緑地	3,000	2,686	2,350	3,616	3,520
法規制遵守	15,604	18,282	20,887	17,829	25,411
グリーン調達	7,484	6,970	7,524	6,633	6,667
EMS構築・運用管理活動	5,071	9,321	4,230	4,431	9,531

図表21 経済効果(収益+費用節減)の推移 (単位:千円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
地球温暖化防止対策	676	148	150	154	146
省資源・リサイクルの推進	358,227	219,061	279,058	394,723	369,445

※他の環境コミュニケーションほか5項目は経済効果はなし

図表22 環境会計の推移(製品の環境配慮設計などの開発費用を除いた比較)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
コスト(投資額+費用額) (単位:千円)	447,491	381,059	339,379	308,179	339,101
経済効果(収益+費用節減) (単位:千円)	358,903	219,209	279,208	394,878	369,591
効果の割合 (単位:%)	80%	58%	82%	128%	109%

POINT

2023年度は2022年度と比較し、地球温暖化防止対策のコスト(投資額+費用額)は、8,400千円増加しました。継続して省エネ効果の高い照明や空調への入れ替えなどを行いました。経済効果は8千円の減少となりました。
使用済み製品の回収量やリユース機などの生産量は減少しました。省資源・リサイクルの推進のコストは6,953千円増加しました。経済効果は25,278千円減少しました。
コスト(投資額+費用額)と経済効果(収益+費用節減)の割合は、109%でした。

主要事業所の環境データ（サイトデータ）

図表23

筑波事業所

集計範囲:筑波事業所内を対象としています。



事業所概要	所在地	茨城県稲敷郡阿見町福田 127-7(福田工業団地)	敷地面積	97,000m ²
			建物延床面積	29,326m ²
	操業開始	1981年(昭和56年)10月	従業員数	273人(2024年3月末現在)
主な生産品目	事務用デジタル印刷機「リソグラフ」ならびに周辺機器 高速カラープリンター「オルフィス」ならびにインク、周辺機器			
特定施設の届出状況	大気汚染防止法のばい煙発生施設(ボイラー) 霞ヶ浦の富栄養化の防止に関する条例の特定施設:浄化槽 振動規制法の特定施設:油圧プレス、機械プレス、空気圧縮機、せん断機、丸のこ盤			
主な環境保全活動	・ISO14001認証継続 ・RoHS指令対応など環境配慮設計活動 ・グリーン調達の実施 ・グリーン購入の推進 ・廃棄物排出量の削減と再資源化の推進 ・省エネによるCO ₂ 排出量削減 ・使用済みインクボトルのリサイクル			

環境関連データ

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年度比(%)
電力使用量	MWh	1,855	1,805	1,816	1,791	1,748	98
水使用量	m ³	9,737	7,963	7,543	8,893	8,459	95
上水	m ³	9,737	7,963	7,543	8,893	8,459	95
地下水	m ³	0	0	0	0	0	—
排水量	m ³	9,737	7,963	7,543	8,893	8,459	95
BOD年間排出量	kg	9.7	8.0	8.1	8.9	9.1	103
窒素年間排出量	kg	78	72	72	74	85	115 注1
燐年間排出量	kg	13.2	4.1	3.8	7.5	6.9	93
廃棄物総排出量	t	460	397	345	362	350	97
埋立最終処分量	t	1.5	1.9	1.6	1.6	1.7	105
廃棄物再資源化率	%	99.7	99.5	99.5	99.6	99.5	100

※筑波事業所の排水は公共水域へ排出しています。

注1 基準値内で、ばらつきの範囲です。

図表24

霞ヶ浦事業所

集計範囲:リサイクルセンターを含めた霞ヶ浦事業所内を対象としています。



事業所概要	所在地	茨城県稲敷郡阿見町阿見 282-2	敷地面積	28,265m ²
			建物延床面積	16,821m ²
	操業開始	1965年(昭和40年)8月	従業員数	45人(2024年3月末現在)
主な生産品目	事務用デジタル印刷機「リソグラフ」の製造			
特定施設の届出状況	騒音・振動規制法の特定施設:空気圧縮機、シャーリングなどの工作機械			
主な環境保全活動	・ISO14001認証継続 ・使用済み印刷機本体のリサイクル活動 ・廃棄物排出量の削減と再資源化の推進 ・省エネによるCO ₂ 排出量削減			

環境関連データ

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年度比(%)
電力使用量	MWh	464	449	443	434	415	96
水使用量	m ³	843	843	900	820	791	96
上水	m ³	843	843	900	820	791	96
地下水	m ³	0	0	0	0	0	—
排水量	m ³	843	843	900	820	791	96
BOD年間排出量	kg	5	11	5	4	3	72 注1
窒素年間排出量	kg	30	41	40	36	34	92
燐年間排出量	kg	4.3	4.8	4.3	3.5	3.2	92
廃棄物総排出量	t	160	153	139	125	103	82
埋立最終処分量	t	0.3	1.1	0.3	0.1	0.1	95
廃棄物再資源化率	%	99.8	99.2	99.8	99.9	98.3	98

※霞ヶ浦事業所の排水は公共下水道へ排出しています。

注1 基準値内で、ばらつきの範囲です。

主要事業所の環境データ（サイトデータ）

図表25

宇部事業所

集計範囲:宇部事業所内を対象にしています。



事業所概要	所在地	山口県宇部市瀬戸原工業団地	敷地面積	75,871m ²
	建物延床面積	15,598m ²	従業員数	65人(2024年3月末現在)
作業開始		1986年(昭和61年)6月		
主な生産品目		デジタル印刷機「リソグラフ」用インクならびにマスター		
特定施設の届出状況		該当施設はありません		

主な環境保全活動	・ISO14001認証継続(2023年9月更新)	・廃棄物排出量の削減と再資源化の推進
	・RoHS指令対応など環境配慮設計活動	・省エネによるCO ₂ 排出量削減
	・グリーン購入の推進	・使用済みインクボトルのリサイクル

環境関連データ

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年度比(%)
電力使用量	MWh	2,109	1,693	1,797	1,723	1,660	96
水使用量	m ³	5,309	4,324	4,659	4,433	4,495	101
	上水	m ³	2,469	2,220	2,341	2,288	119
	地下水	m ³	2,840	2,104	2,318	2,145	82
排水量	m ³	2,469	2,220	2,341	2,288	2,733	119
BOD年間排出量	kg	5	9	33	13	11	78 注1
廃棄物総排出量	t	188	148	172	182	164	90
埋立最終処分量	t	0.3	0.1	0.1	0.1	19.0	19,000 注2
廃棄物再資源化率	%	98.7	99.4	99.4	99.5	87.8	88.3

※宇部事業所の排水は公共水域に排出しています。

- 注1 基準値内で、ばらつきの範囲です。
- 注2 設備の除却を行ったためです。

図表26

理想開発センター

集計範囲:理想開発センター内を対象にしています。



事業所概要	所 在 地	茨城県つくば市 学園南2丁目8番1	敷 地 面 積	17,521m ²
			建物延床面積	15,197m ²
	操 業 開 始	2013年(平成25年)6月		
特定施設の届出状況	水質汚濁防止法・下水道法に係る特定施設：ドラフトチャンパー1台、流し台5台、洗濯機1台 騒音規制法に係る特定施設：送風機4台、液圧プレス3台、せん断機2台 振動規制法に係る特定施設：液圧プレス3台、せん断機2台 ばい煙発生施設として；非常用発電機1台			
主な環境保全活動				
	・ISO14001認証更新(2023年11月24日更新)		・環境配慮設計活動	
	・省エネによるCO ₂ 排出量削減 ・緑地化活動		・廃棄物排出量の削減と再資源化の推進	

環境関連データ

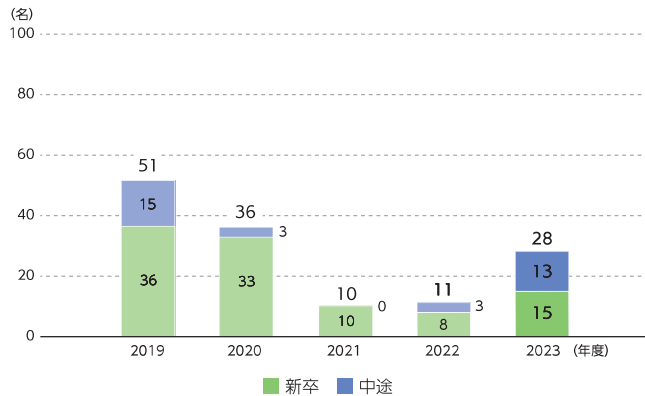
	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年度比(%)
電力使用量	MWh	2,257	2,037	2,130	2,061	2,046	99
水使用量	m ³	8,356	6,258	5,967	6,355	6,547	103
	上水	m ³	8,356	6,258	5,967	6,355	103
	地下水	m ³	0	0	0	0	—
排水量	m ³	8,356	6,258	5,967	6,355	6,547	103
BOD年間排出量	kg	275	356	269	107	244	229 注1
廃棄物総排出量	t	256	116	120	99	78	79
埋立最終処分量	t	1.4	0.8	0.8	0.8	0.8	95
廃棄物再資源化率	%	99.2	99.0	98.8	98.8	98.1	99

※理想開発センターの排水は公共下水道に排出しています。
※2013年6月に開所しました。環境に配慮してまいります。

- 注1 基準値内で、ばらつきの範囲です。

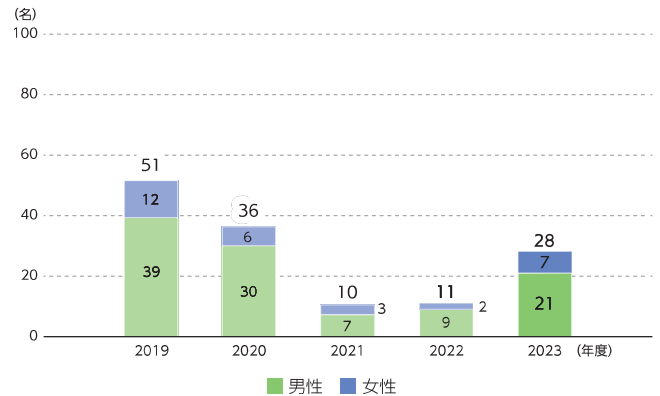
社会関連データ

図表27 採用実績(国内)(新卒/中途)



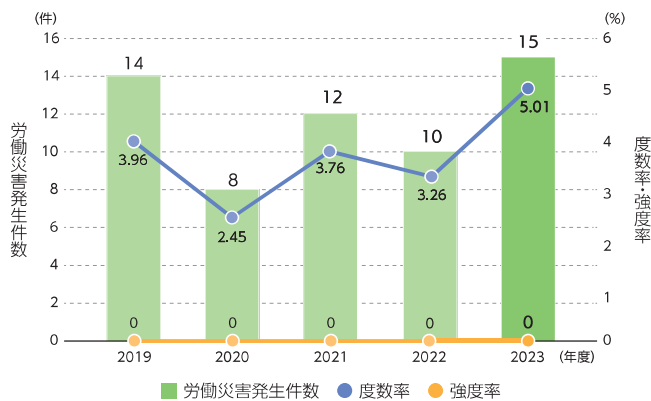
集計範囲: 単体(国内)

図表28 採用実績(国内)(男性/女性)



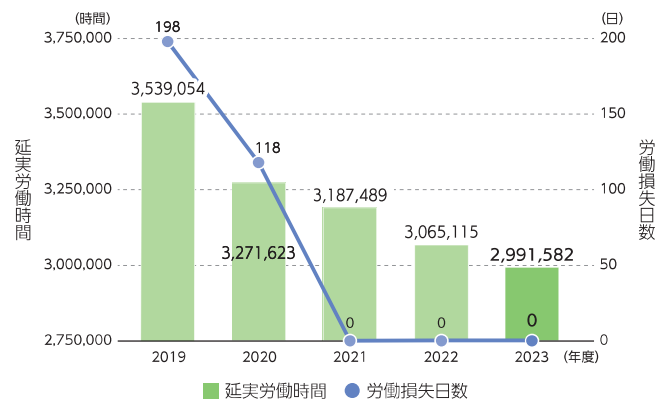
集計範囲: 単体(国内)

図表29 労働災害発生件数および度数率・強度率



集計範囲: 単体(国内)

図表30 延実労働時間と労働損失日数



集計範囲: 単体(国内)

POINT

労働安全衛生

各生産事業所では、「安全衛生委員会」を設け、職場環境整備、不安全箇所の発見と是正、「ヒヤリハットの活動」などを行い、事故・災害防止に努めています。また、社内イントラネットに「安全衛生」ページを設け、社員の安全意識の啓発・教育を行っています。

2023年度の国内の労働災害発生件数は、15件で、2022年度から5件増加しました。労働災害による労働損失日数は0日で2022年度と同じでした。

社員の健康増進

当社は、健康診断の実施やメンタルヘルスへの配慮などを通じて社員の健康面に配慮しています。

一般健康診断、生活習慣病検診、人間ドックを実施して社員の健康状態を確認するとともに、必要に応じて生活習慣や健康増進に関する指導を行っています。また、身体の健康だけではなく心の健康を保つため、心の健康調査の実施や相談窓口を設置しています。

理想科学工業株式会社

本社／〒108-8385 東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル

【お問い合わせ先】 環境活動推進部

Tel. 03-5441-6778 Fax. 03-5441-6629

E-mail: info@riso.co.jp URL: <http://www.riso.co.jp/>